

ごん吉くんレポート

第41回

家康公ゆかりの橋

～南吉よもやま話～

新美南吉の命日「貝殻忌」

(3月22日)を目前にした先月中旬、矢勝川に架かる岩滑西橋の改修工事が竣工しました。

岩滑西橋は、県道阿久比半田線が通る高田橋の上流300mほどにある橋です。高田橋の西側にあたるので、現在は岩滑西橋という名称になっていますが、もともとは「大橋」や「お殿橋」と呼ばれていました。

今回の改修工事は、橋梁の補修と共に、ガードレールだった欄干を景観に配慮したデザインに改め、橋名を記した親柱を立てるもので、国の補助金を受けて半田市が行いました。

「お殿橋」という呼び名は、昔、この橋を徳川家康が渡ったという伝承に由来します。桶狭間の戦いの後、今川方の武将だった家康は、生母於大の再婚先である坂部城(阿久比町坂部)の久松家に身を寄せた後、この辺りで矢勝川を渡り、岩滑城に立ち寄ったと

いいます。

当時の岩滑城主、中山勝時は於大の妹を妻としており、家康の叔父にあたりました。中山氏は「ごんぎつね」にも

「中山さま」として登場します。作中で「中山さま」のお城は、新美南吉記念館がある字中山にあったことになっていますが、実際は岩滑の常福院周辺にあった岩滑城を居城にしていた。

その後、家康は従兄弟が住職をしていた成岩の常楽寺を経て、無事、岡崎城に戻りました。桶狭間の戦い後の家康の動きについては諸説あり、実際に岩滑城へ立ち寄ったかはわかりません。しかし、文政6年(1823)と天保11年(1840)に橋を修築した際は、尾張藩の作事方から資材が提供されたといい、寒村には珍しく欄干までついた立派な造りでした。『半田町史』では、家康が川を渡るに際して何か特別な事情があり、そのために藩費で維持されるようになったのではないかと推測しています。

と推測しています。

大正時代には舟板を渡した程度になっていましたが、昭和34年に土橋に架け替えられ(※)、昭和53年に現在の鋼桁の橋に変わりました。

今回の改修は旧観に基づく再現ではありませんが、橋にまつわる伝説を知ってもらい、秋の彼岸花の季節にはフォトスポットとして親しまれることを願っています。



▲今回の改修で綺麗になった橋



▲昭和53年の鋼桁化前の破損した橋

※郷土誌「植物語」(昭55)による。

アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-8666
東洋町2-1 企画課
Eメール
kouhou@city.handa.lg.jp



編集後記

今 回の市報では、平成最後ということで、半田市の平成を振り返る特集を掲載しました。愛・地球博や天皇皇后両陛下の新美南吉記念館へのご訪問など、さまざまな出来事がありましたね。

平成最後といえば、半田市有脇町出身の石川昂弥選手が、第91回選抜高校野球大会で見事優勝しました。主将を務める石川選手は、決勝で投手として完封し、ホームランも2本打つ大活躍でした。半田市出身の石川選手の活躍はとても嬉しいとともに、元気をもらえますね。(浅野)

UDFONT
使いやすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



植物油インキ使用
再生紙使用
印刷 東海通信印刷機

